

# 「生きびい(心)ち」

## 座談会5人の出席者が語る いまを生きる私たちの

寄稿

香山リカさん、上野千鶴子さんらをパネリストに、現代を生きる若者たちが直面する問題を探る「人間科学部開設・文学部改組記念シンポジウム 生きびい(心)ち」(専修大学創立130年記念事業)が2009年11月、神田キャンパスで開催された。昨年6月25日には、シンポジウムを聴講した学生・大学院生5人による座談会が生田キャンパスで開かれ、シンポジウムの議論を若者たちはどうとらえ、なにが生きびい(心)ちの原因になっているのか、率直な意見が出された。その出席者からの寄稿をお届けする。シンポジウムと座談会の模様は新書・SI Libretto『生きびい(心)ち』の時代 香山リカ×上野千鶴子×専大生(700円+税 専修大学出版局)にまとまった。

### 経済の視点で考察 自由への「代償」

三砂 昭太(経済4)



「生きびい(心)ち」のシンポジウムに始まり、座談会、そして本の出版に至るまで、私の大学生活を振り返る機会が多かった。シンポジウムでは香山リカ先生は心の変化、上野千鶴子先生は社会の変化から「生きびい(心)ち」というものが、専門の垣根を超えて同じ

### 人との「つながり」 どう求めるか議論

福田 洋佑(文4)



「生きびい(心)ち」の時もある。また最近ではトイロでお昼を食べる学生もいると聞きます。このような「つながり」の形態や距離と「生きびい(心)ち」の関係についてシンポジウムでは、多く聞か

面から迫り、学生にも分かりやすい講演でした。しかし私が日常的に感じる疑問についてはあまり触れられていませんでした。たとえば、メールやmixiなどで人とのつながりを強く求める人、あるいは、反対に「つながり」を断ち切りたい人、

耳にします。私は吃音という言語障害をもっています。しかし本書の発言では、まったくもっていません。私は校正段階で、問題視することなく吃音部を削除してしまいました。吃音者が吃音部に、さまざまな意味合いを込めていることを、私自身、重々承知しているにもかかわらず、ではなぜ、それを削除



都合によりこちらの画像は  
掲載していません

### 現代は「生きやすい」 もっと希望を持つとう

深町 真美(経済4)



「生きびい(心)ち」のシンポジウムでは香山リカさん、上野千鶴子さんの興味深い話をお聞きすることができ、さらに他学部の方と議論を深めるなどとても貴重な体験をすることができました。たしかに現代は「生きびい(心)ち」の

### 貴重な体験となった 他人との「堂々巡り」

矢崎慶太郎(大学院文学研究科 博士後期課程)



「生きびい(心)ち」という問題は、自分を含め、自分の身の回りにいる多くの人が抱えている問題であり、この意味で、シンポジウムはとても意義深いものでした。僕がシン

ポジウムに参加して理解したことは次のようなことです。「生きびい(心)ち」というテーマのもとで起きているのは、社会がグローバル化することで、あらゆることに変化し、流動化しているということです。このことは、こ

々しい若者の心の声は、見もありましたが、それは少なからず共感する部分もあり、現代には「生きびい(心)ち」が蔓延しているのだと実感しました。そして後日行った座談会ではお互いに意見を交換し合い、「生きびい(心)ち」について人によってさまざまな捉え方があるのだと分かりました。ここでは、香山リカ先生の率直な意見を聞くことができてとても良かったです。一方、私は「生きびい(心)ち」について理解を深める友人がたくさんいます。以上ことから私は現代や未来に続く若者像に、もっと希望を持って、も良いのではないかと考えるのです。

ポジウムを聞いたのだから、もう自己決定などしないぞ、ということを決断しなければならなりません。しかし座談会という場所は、それは異なる場所でした。「生きびい(心)ち」について、「他人」が何を考えているのかを僕が考えている、ということを知ることができています。議論は、堂々巡りで非生産的であるように思われるかもしれませんが、しかし座談会という場は、自分と他人の距離が少し近くなることで、自分自身も気づかされることがあります。自分自身も気づかされることがあります。自分自身も気づかされることがあります。